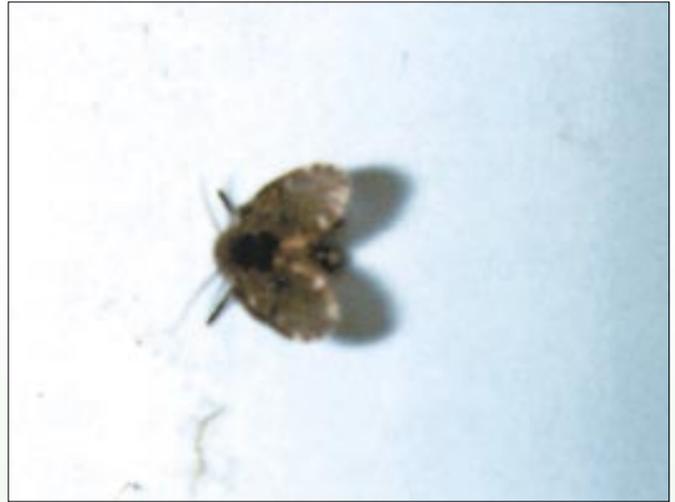


チョウバエ

トイレでチョウのように舞う虫



問題になるのは、オオチョウバエとホシチョウバエの2種類があげられます。これらは、飛んでいないときは見逃す程小型で、ハエに似たハート型をしています。都内でチョウバエの発生が目立ってきたのは、ビルの建築ラッシュが始まった昭和40年代頃からで、調理場への侵入や食品への混入が問題となります。



オオチョウバエ(体長約4~5mm)

生態

チョウバエの発生源は、ビルの汚水槽や雑排水槽内です。また、一般家庭でも、風呂場や台所の「排水マス」から発生することがあります。

幼虫は、これら場所の槽内にあるスカム(浮かす)中に生息し、有機物を食べて羽化します。最近、都心のビル街ではオオチョウバエが増え、ホシチョウバエとの比率が、およそ9:1といわれています。



幼虫(体長8~9mm)

対策

ビルの汚水槽や雑排水槽内には、スカムをためないようにします。

あわせて、DDVP樹脂蒸散剤の吊り下げも有効です。

一般家庭では、台所や風呂場の排水口に設けられた目皿に、ネット等をあて侵入を防ぎます。また、風呂場の排水口に設けられたベルトラップ(お椀を伏せたような形の金属製の防臭設備)を、掃除後に元に戻すこと等の注意が必要です。



発生源(雑排水槽)

(写真提供:東京都)